

苦小牧市医師会
医 師

佐竹 幸雄

赤ちゃんの“めやにと涙”

めやに（眼脂）は一般には結膜炎の症状ですが、新生児期、あるいは生後数週間後から、しつこく「めやに」と涙が出てなかなか治らない時は、先天性鼻涙管閉塞（新生児涙嚢炎）が考えられます。

涙は主として下涙点から涙小管、涙嚢、鼻涙管を通じて鼻腔の下鼻道へ流れますが、これがふさがったままで生まれてくる

と、生後間もなくより「めやに」流涙に悩まされることになりま。これは涙嚢にたまった涙が腐敗して結膜嚢内に逆流してくるからで、この状態を新生児涙嚢炎といいます。自然に治癒することもあるとろんあり、涙嚢部のマッサージなどで治ってしま。うこともありますが、抗生物質の目薬をしばらく使っても治らない場合は、鼻涙管の流れがう

一度のブジーで完治する

まくいつていないことも考えなくてはなりません。この場合は鼻涙管ブジーといつて針金のよ。うな器具を涙点から鼻腔へ通してやることによつて治ります。大人の慢性涙嚢管狭窄では鼻涙ブジーだけでは完治することは難しく涙嚢鼻腔吻合術といつて手術が必要になります。が、赤ちゃんの場合はほとんど一度のブジーで完治することから、昔から

ゴールドンブジーと呼ばれております。ただし、あまり大きくなつてからですと、暴れてやりにくくなりますし、治癒率も下がります。生後二カ月から四カ月ぐらいの間に処置した方が良いでしょう。

この他にも、まれではありませんが、涙点が膜模様により閉じられてる先天性涙点閉鎖、副涙点あるいは涙嚢瘻といった涙

道が鼻側の皮膚に開口していることがあります。

結膜炎としては各種細菌によるもののほか、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、咽頭（いんとつ）結膜炎などウィルス性の結膜炎がありますが、外に出ることの少ない赤ちゃんにはウィルス性結膜炎は多くはありませ。ん。もちろん親兄弟からうつることはありますが。

最近では出生時に母体からの産道感染によつて起こるクラミジアによる結膜炎が問題になつております。

いずれにしても赤ちゃんの涙、めやにには漫然と薬を使うことなく眼科医を受診する必要があります。

お問合せは、苦小牧市医師会
電話 33-4720